Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-08

第9章 大学コンソーシアムひょうご神戸 社会連携助成事業 ： 「平常時・災害時における歴史資料の保全・修復ができる人材の育成事業

松下, 正和

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,9(平成22年度事業報告書):49-51

(Issue Date)
2011-03-31

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002933

朝来市生野町にて開催。

・いずれの場合も対象者を一般公募するのではなく、地元教育委員会の推薦等により、市民の中からモニターを選出（1 回目は香寺町と福崎町内の一般市民、教師、自治体職員等 12 名。2 回目は朝来市内等のボランティア・元教員、郷土史家等 9 名）。

・市民モニターからは、試行プログラムの受講後、意見交換会で、講座内容について意見・感想を出してもらった。

□講座の中身（第 1 回目の場合）

①「地域歴史遺産とまちづくり」（2 時間）

②「今を伝える歴史資料」（1 時間）

③「古文書基礎講座」（2 時間）

④「地域社会の成り立ち」（計 2 時間 15 分）
現代における地域社会の成り立ち（45 分）／古代の里と村（30 分）／中世の荘園と村（30 分）／近世の地域社会（30 分）

⑤「災害から地域史料を守る」（1.5 時間）

□モニター結果･･･おおむね好評

「この講座を受講した経験を、今後何かに役立てることができると思いますか？」

→できると思う 12 名（回答者全員）

（例）まちづくり活動／地域活動で実践する／地域の住民に伝える／村史・大字誌の編集／災害時の史料の取り扱い（自治体職員）／授業・総合的な学習の時間（中学校・小学校教員）／資料館や博物館に行ったとき文書が読めると楽しい

□改善点･･･開催日時や時間配分に工夫が欲しい、さらに実践的講座（古文書）の開講要望もあり。

□これを受け、第 2 回のプログラムは、古文書の取り扱いや整理やフィールドワーク・ワークショップを踏まえた形で実施。さらに 2011 年度 4 月に開催予定（尼崎市）の講座では、開催日時に変化をもたせて実施する予定。

(2) 兵庫県教育委員会との覚書の締結

（1）の人材育成事業を共同して推進していくため、兵庫県教育委員会文化財室と議論を積み重ね、平成 23 年 1 月 28 日、「地域歴史文化を担う人材の育成の方策に関する調査・研究に関する覚書」を締結した。

この覚書により、人文学研究科と兵庫県教育委員会は、これまでの連携成果を踏まえながら、さらに「地域の歴史を社会全体で守り、古文書等を理解し、活用を図る人材を育成するために、市民を対象とする『まちづくり地域歴史遺産活用講座（仮称）』を開設し、展開方策を調査・研究する」ことになった。本書巻末に覚書全文を掲載した。

(3) 全県的な史料群データベースの整備（ひょうご歴史資料情報基盤システムの構築）

第 1 回コンソーシアム（2010 年 6 月 28 日）で掲げた目標は、以下の通りだった。

①地域史料の悉皆的調査にもとづいた全県的な史料目録の作成（→情報の管理公開も含めた共同調査研究の必要性）

②作成された史料目録を市民も利用できる環境の整備（→利用環境を整えるための市民向け「まちづくりハンドブック」の作成など）

③パイロット事業･･･戦前期の地方新聞の画像デジタルデータ化作業（神戸又新日報、コーベ・クロニクル etc）

このうち①②については、次年度以降の課題となるが、③のパイロット事業については、「神戸又新日報」作業について一定の前進がみられ、316 リール中、88 リールのデータ化作業がすすんだ。（文責・坂江渉）

第9章 大学コンソーシアムひょうご神戸 社会連携助成事業「平常時・災害時における歴史資料の保全・修復ができる人材の育成事業」

本事業は、平成 19 年 7 月、大手前大学・神戸女子大学・神戸大学の歴史文化系の 3 大学連合の

形で応募した事業企画が採択を受け、それ以来継続している事業である。今年度は、大手前大学・関西学院大学・神戸大学の 3 大学連合で事業をすすめ、技術提供のため歴史資料ネットワークのメンバーにも協力を仰いでいる。

これまでも水損資料の保全・修復ができるボランティア養成のため、各大学および県内自治体で学生や市民・文化財担当自治体職員向けのワークショップをおこない、また関連するシンポジウムなどを開催してきた。

今年度は、日常時と災害時におこなった史料保全活動を文化財担当職員や地域住民に知ってもらうための取り組みとして、兵庫県をはじめて飛び出し、大阪にてワークショップとフォーラムを開催することとした。

＜歴史資料の保全－水害被災地からの提言－＞

兵庫県北部などを襲った平成 16（2004）年 10 月の台風 23 号水害、兵庫県西部に大きな被害をもたらした平成 21（2009）年 8 月の台風 9 号水害、また今年度中でも鹿児島県奄美地域における平成 22（2010）年 10 月の豪雨被害など、近年相次いで水害が発生している。水害時において、人的・物的被害をいかに防ぎ、救済するのかが課題であることはいうまでもない。しかしそれに加えて、地域の文化遺産が破損し、また被災した歴史資料が廃棄されていく現実を、文化財を研究する者として見過ごすわけにはいかない。

我々文化財系大学フォーラムひょうごでは、水損歴史資料の保全・修復に関する基礎を学べるワークショップを市民や学生向けに開催し、知識の普及に尽力してきた。今回はワークショップにあわせて全国各地の災害時における取り組みの一端を紹介し、この問題について文化財担当職員や地域住民と考える機会をもつこととした。

■主催：文化財系大学フォーラムひょうご（神戸大学・関西学院大学・大手前大学）

■共催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター・大手前大学史学研究所

■後援：歴史資料ネットワーク・文化財保存修復学会・日本文化財科学会・歴史学と博物館のあり方を考える会

■日時：平成 23（2011）年 3 月 7 日（月）ワークショップ 10 時～　フォーラム 13 時～

■会場：大阪歴史博物館第 1 研修室（大阪市中央区大手前 4-1-32）

■内容：

【第 1 部】10 時～ 12 時　水損歴史資料ワークショップ（水損史料の応急的救出法についての講義・実習）松下正和・河野未央

【第 2 部】13 時～ 17 時　フォーラム「水没した歴史資料の救出と保全―平成 21 年佐用・平成 22 年奄美の教訓―」

・報告＝藤木透（佐用町教育委員会）・中山清美（奄美市博物館）

・コメント＝前田徹（兵庫県立歴史博物館）・原野耕三（原野農芸博物館）・日高真吾（国立民族学博物館）

・司会＝坂江渉（神戸大学）

今回の企画には、全国から約 40 名ほどの参加があり、文化財保存科学系の学生や一般市民をはじめ現役のアーキビストや学芸員、市史編纂担当職員など地域の歴史資料にたずさわる様々な立場の方々にお集まりいただいた。また、実際に被害のあった地区からの報告は、まだ被害に遭っていない地域での災害時対応を考える上で非常に有益なものであった。被害の実態や応急処置法をより広く知らせるという当初の目的は十分に達成できた。ただ、奄美ではまだ復旧途上であり、今後我々がどのような支援ができるのかも問われることとなった。コンソメンバーはこの 3 月に奄美地域の現地調査をおこなうこととしている。

今年度は交付金の支給が 10 月以降と遅かったため、年度を通した活動がしにくい状況であった。にもかかわらず、地域の歴史資料保存に関心を持つ方々との交流のためのプラットフォームを全国発信できたことの意味は大きいであろう。今後ともこうした文化財系大学間の連携・連合が定着し、より多くの県内の大学機関へと広めること

に努めたい。　　（文責・松下正和）

第10章　神戸大学附属図書館との連携

2004 年 3 月以来人文学研究科地域連携センターによって進められてきた基礎的な調査の成果を承けて、附属図書館では 2009 年度より附属図書館各館室に所蔵する古文書等地域史料の詳細について、その全容を明らかにする調査を開始した。

本事業では、社会科学図書館蔵郷土文献資料を中心とする附属図書館所蔵文献資料の詳細な目録作成とそのデータベース化と共に、史料の保存・公開、さらにこれらを基礎に史料の電子化公開を目標に活動を進めている。

事業開始以来、人文学研究科院生で日本中世史専攻の山本康司君に文書の整理に当たってもらってきた。

2010 年度までの成果として、社会科学図書館所蔵の文献資料群のうち「播磨国飾東郡・印南郡文書」「摂津国豊島郡池田村福井家文書」「播磨国揖西郡栄村庄屋文書」「播磨国揖東郡船渡村庄屋文書」「「古文書」」「山城国葛野郡下桂村風間家文書」の整理および目録作成を完了している。

2011 年 2 月 7 日には、これらの目録に基づき、同館電子図書係で整備された目録データベースが同館の HP 上で公開された（http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kichosyo/monjo/）。

データベースには、山本君が作成にあたった解題も併せて掲載され、利用者への便宜を図っている。

なお今後も連携して、社会科学図書館所蔵の文献資料群を中心に整理作業を継続し、併せて公開も漸次進めていくことになっている。

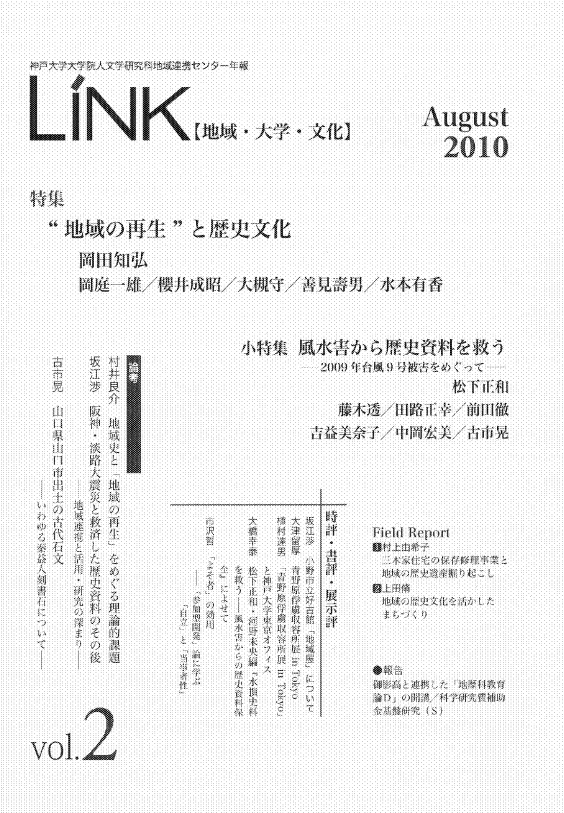
（文責・木村修二）

第11章　研究

地域連携センター年報『ＬＩＮＫ【地域・大学・文化】』

2010 年 8 月 31 日付で第 2 号を発行した。特集「“地域の再生”と歴史文化」と小特集「風水害から歴史資料を救う― 2009 年台風 9 号被害をめぐって―」を編んだほか、論考 3 本、時評・書評・展示評を 5 本、フィールドリポートを 2 本、活動報告 2 本を掲載した。内容は下記のとおり。

■特集「“地域の再生”と歴史文化」
・編集委員会「特集にあたって」
・岡田知弘「ポスト構造改革期における地域づくりと歴史の再把握」
・岡庭一雄「全村博物館構想と地域再生　長野県阿智村」
・櫻井成昭「ムラの調査と景観保全―大分県豊後高田市田染小崎地区について―」
・大槻守「市町合併と町史編纂―香寺町史の場合―」
・善見壽男「富松城跡の保存運動と地域づくりの取り組み」
・水本有香「《書評》塩崎賢明著『住宅復興とコミュニティ』」



■小特集「風水害から歴史資料を救う― 2009 年台風 9 号被害をめぐって―」
・松下正和「特集にあたって」
・藤木透「2009 年台風 9 号水害と史料救済―佐用町での動き―」
・田路正幸「宍粟市における豪雨災害と歴史資料